

授業科目名	看護技術Ⅲ			担当教員	西山 陽子 山本 孝治	
開講年次	2年後期	セメスター	4	時間数(単位数)	30 (1)	
必修選択	必修	授業形態	演習	使用教室		
授業の目的	健康障害を持った対象者に対して、個別状況に応じた看護技術を習得する。					
到達目標	看護技術Ⅰ・Ⅱの学習を発展させ、対象者の健康状態に応じた看護技術が実施できる。 1) 経管栄養法の看護技術を実施できる。 2) 排泄の看護技術として、浣腸・坐薬使用・導尿の看護技術を実施できる。 3) 呼吸循環を整える看護技術を実施できる。 4) 創傷管理技術を理解することができる。 5) 血糖コントロールのために、血糖測定・インスリン注射の看護技術を実施できる。					
授業計画						
回	授業内容	授業方法	学修課題 (予習・復習)	取組時間	担当者	
1	科目オリエンテーション 排泄の看護技術 浣腸、坐薬	演習	予習：排便に関連する人体の構造と機能を学び、浣腸、坐薬の与薬方法手順とポイントをまとめる。 復習：演習を評価し、それぞれの手順とポイントを修正・加筆する。	40分	山本	
2						
3	食事の看護技術 経管栄養法	演習	予習：経管栄養法に関連した人体の構造と機能を学び、経管栄養法手順とポイントをまとめる。 復習：経管栄養法の演習を評価し、手順とポイントを修正・加筆する。	40分	山本	
4						
5	排泄の看護技術 導尿（一時的・留置）	演習	予習：排尿に関連する人体の構造と機能について学び、導尿（一時的・留置）の手順とポイントをまとめる。無菌操作を振り返る。 復習：演習を評価し、それぞれの手順とポイントを修正・加筆する。	90分	西山	
6						
7	技術確認（一時的導尿）	演習	予習：一時的導尿の手順を振り返り、安全と安楽を確保して行えるよう技術を練習する	90分	西山 山本	
8						
9	呼吸循環を整える看護技術 酸素吸入療法 一時的吸引 体位ドレナージ	講義 演習	予習：呼吸に関する人体の構造と機能について学び、酸素吸入療法、一時的吸引、体位ドレナージの手順とポイントをまとめる。 復習：それぞれの演習を評価し、手順とポイントを修正・加筆する。	60分	西山	
10						
11	創傷管理技術 創傷のアセスメント 褥瘡予防 包帯法	講義 演習	予習：創傷の治癒過程および創傷の管理技術、褥瘡の発生機序について学ぶ。 復習：演習を評価し、創傷処置と管理の手順とポイントをまとめる。	60分	ゲスト スピーカー	
12						

13	症状・生体機能管理技術 血糖測定 インスリン自己注射	演習	予習：インスリン分泌に関する人体の構造と機能について学び、血糖測定とインスリン自己注射の手順とポイントをまとめる。 復習：それぞれの演習を評価し、手順とポイントを修正・加筆する。	60分	山本
14					
15	試験のフィードバック 科目全体のまとめ	講義	予習：14回までに学んだ技術を振り返る。疑問点について調べる。	60分	西山 山本
先行履修 科目					
テキスト	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学 [3] 基礎看護技術II 第17版. 医学書院, 2017.				
参考文献	以下の他、既習科目のテキストも含め、自主的に参考文献を活用すること。 Bryant, R.A.Nix, D.P / 渡辺皓, 菊地憲明, 館正弘監訳：創傷管理の必須知識. エルゼビアジャパン, 2008. 黒江ゆり子他：系統看護学講座 専門2 成人看護学[6]内分泌・代謝 第14版. 医学書院, 2015.				
メッセージ	既習の知識を活用し、なぜそうするのか、どうすれば安全安楽を保ちながら効率的に実施できるのかを考え看護技術を習得してください。自主的・積極的に取り組むことを前提として、グループダイナミクスを活用して互いに学びあいましょう。				
科目の 位置づけ	卒業時の看護技術力(看護技術V)を身につけるべく、看護技術I・IIでの学びをもとに、健康障害を持った対象者への個別状況に応じた看護技術を学び、健康レベルおよびライフステージ、個あるいは集団等の対象の特性に応じた適切な看護を行うための看護技術の習得(看護技術IV)につなぐ科目である。				
ディプロマポリシー との関連	人間の尊厳と権利を擁護する力	自己教育力	チームで働く力	問題解決力	看護の専門性を探究する力
		○		◎	
評価方法	筆記試験(50%)、技術(10%) 授業態度(10%)、事前学習(30%)で総合的に評価する。				